

クリスティーヌのこと

柴田 裕子

五人家族で、私のホストは末っ子のクリステイーヌという十二才の女の子でした。このホーム・ステイで私が一番心配だったのは、言葉です。英語で何か話そうと思つても、その一言一言を辞書で引かなければ話せないので、（ああ、じれつたいだろうなあ。嫌われたりしないかな……）と、不安でたまりませんでした。

ところが、ホスト・ファミリーの人達は少しもいやな顔をせず、話す時はゆつくり、はつきりと、分かりにくくい時は一語ずつ丁寧に辞書を引いた

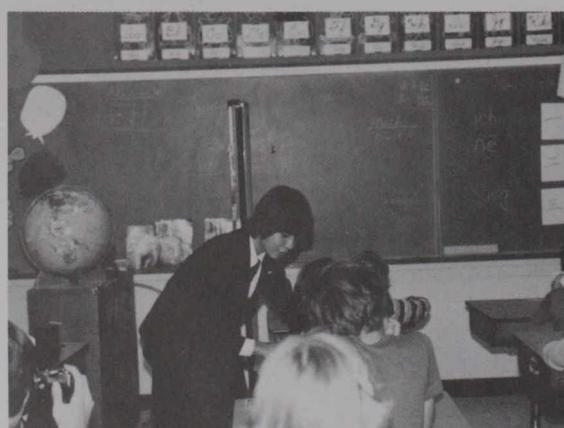
● ウィニペグ

も一人つきりで朝食を食べました。朝食も自分で作るという習慣になっていたので、寝坊すると大変でした。私には家の仕事として、犬の散歩と夕食の準備が与えられました。色々と分からぬことが多く、苦労もありましたが、本当の生活を体験するという意味で、とても良かったと思います。

夕食の後には、彼女達のリクエストにより、「日本語教室」が開かれました。教える内容としては、日本の挨拶や月や曜日の言い方、その他、知りたい言葉があれば教えてあげました。彼女達の日本への関心が、私の想像以上に強いのには驚きました。歌舞伎、日本の祭、茶道、寺社などについて質問された時は、私も良く知らないために十分な説明ができず、

私が世田谷区からの親善使節としてウニペグを訪れたのは、中学二年生の十一月のことでした。ちょうどハロウィーイの翌日、真白い粉雪の舞う晩に、私達五人の使節団は目的地ウニペグに到着しました。空港ではすでに、ホスト・ファミリーの人達が迎えに来ていて、挨拶もそここに各家庭に引き取られていきました。

り、絵を書いたりして説明してくれました。この様な温かい家族のおかげで、はじめは黙りがちだった私も、その日のうちに打ちとけることができました。



柴田さんの「日本語教室」

とても残念に思い、さらに、自分は日本文化に對する関心人でありながら、日本文化に対する關心が薄かつたことを深く反省させられました。

グ協会では、そのほか、カナダの写真展示会や映画会、英会話教室、在日カナダ人をはじえたクリスマス・パーティなども開いている。昨年は、世田谷区障害者福祉団体のウイニペグ訪問も実現した。

ウイニペグは、カナダ中央部に位置するマニトバ州の首都で、人口は約六十万。東部カナダから西部カナダへの玄関口として古くから交通輸送および商品流通の重要地点である。古い教会の建つ、美しい、落ち着いた町としても知られている。

日加親善の架け橋になりたい——といふ日系カナダ人の努力で、一九六〇年以来小・中学校間の図画の交換、姉妹校提携など交流を続けていた東京・世田谷区とウイニペグ市が姉妹縁組をしたのは、一九七〇年十月。以来、友好親善使節団の相互訪問、テレックスで結果を報告しあう同時進行アーチエリー競技会、中学生や一般市民の交換訪問などが行なわれていや、世田谷区とウイニペグ市は、交流を足進んで、世田谷区の文化振興に貢献している。

人々の温かさを感じなかつたことはありま
せんでした。ウイニペグ。そこは私の第一
の故郷です。（東京都立新宿高校二年生）

こんなに楽しく、幸
せな日々を過すこと
ができたのは、ウイニペグ
の人々の優しさ、思いやり
のおかげです。学校で、街